

患者ID:@PATIENTID

2010.6.25作成

@PATIENTNAME 様 大腸化療(ベクティビックス+FOLFIRI)

2012.2.7改訂

指示者	@USERNAME
コース数	

身長	HEIGHT01_Dc	cm
体重	WEIGHT01_D	kg
体表面積	#VALUE!	m ²

(DuBoisの式)

実施印

	薬物/実際の投与量	投与時間	投与経路	
①	生理食塩液500mL	ルートキープ	点滴(末梢) 初回のみ	初回のみ
②	ポララミン注 生食50mL	15分	点滴 初回のみ	初回のみ
③	グラニセトロンバッグ デカドロン3.3mg 2A	30分	点滴	
④	ベクティビックス 6mg/kg 生食100mL ()mg/body #VALUE! 計算値	60分	点滴	フィルター使用
⑤	生食50mL	15分	点滴	
⑥	トポテシン 150mg/m ² 5%糖液250mL ()mg/body #VALUE! 計算値	90分	点滴	
⑦	レボホリナート 200mg/m ² 5%糖液100mL ()mg/body #VALUE! 計算値	120分	点滴	
⑧	5FU 400mg/m ² ()mg/body #VALUE! 計算値	5分	点滴	
⑨	5FU 2400mg/m ² +生食を加え全量を230mL (処方生食500mL) ()mg/body #VALUE! 計算値	46時間 インフューザー ポンプで	点滴	

トポテシンの副作用(下痢)が懸念される場合は以下の内服も考慮

ブスコパン3錠3×1日分(1日目)

炭酸水素ナトリウム1.8g3×4日分(1~4日目)

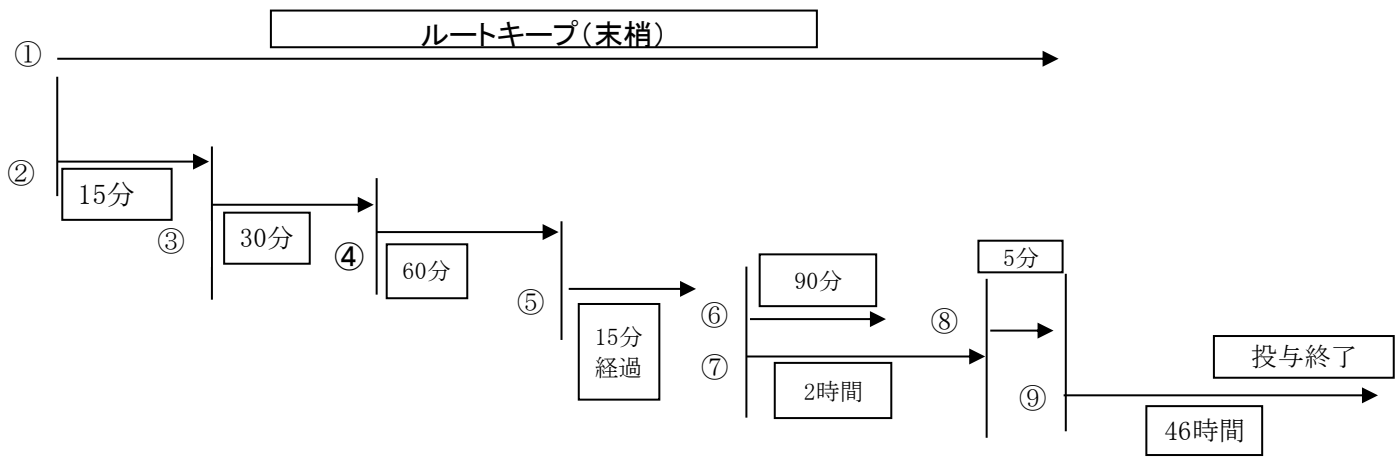
ウルソ3錠3×4日分(1~4日目)

カマグ1.5g3×4日分(1~4日目)

ロペミン1C1×下痢時

半夏しゃ心湯 3P3× 毎食前

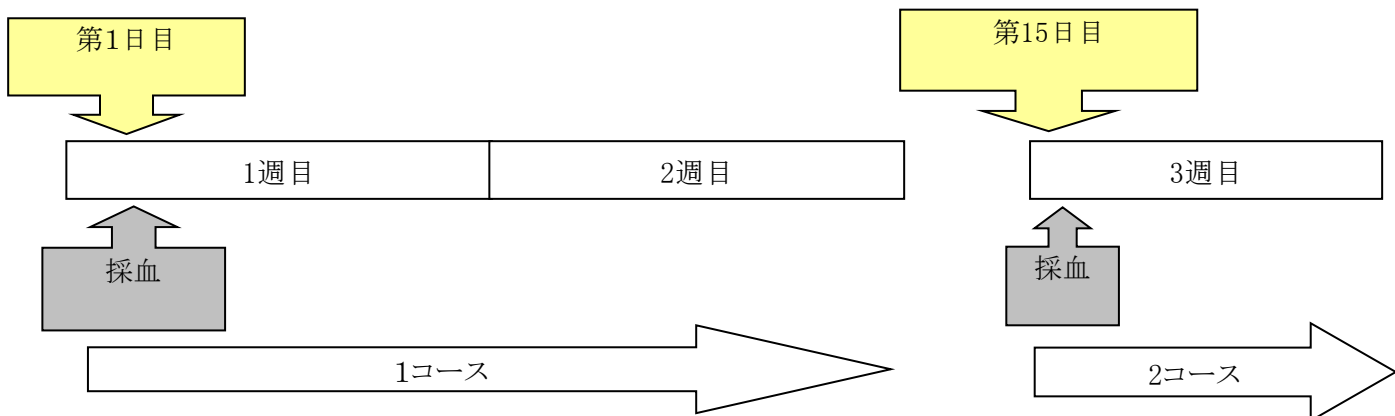
投与手順



注意

インフュージョンリアクション発現時の対応のため、初回のみ末梢ルートを確保する。
ベクティビックスは生食以外との配合はできない。⑤の生食はルート内フラッシュ及び経過観察目的で行う。

スケジュール



<ベクティビックス単剤>

副作用発現

ざ瘡 65%	低Mg血症 28%	下痢 15%
皮膚乾燥 60%	疲労 26%	嘔吐 15%
発疹 55%	口内炎 25%	紅斑 13%
掻痒 42%	食欲不振 20%	
爪周囲炎 35%		

臨床試験成績(国内第2相試験:20050216試験)

*追跡期間中央値26.1週(5.4-42.0週)
奏効率 13.5%
奏効期間 16.2週
PFS 8.0週
OS 9.3月

V303試験

FOLFIRI VS civ5FU/LV

	奏効率	TTP	MST
FOLFIRI	34.80%	6.7ヶ月	17.4ヶ月
civ5FU/LV	21.90%	4.4ヶ月	14.1ヶ月

化学療法未治療の切除不能転移・再発大腸癌
奏効率 56% (海外)
PFS 8.5ヶ月*
OS 17.4-20.1ヶ月***

※Christophe Tournigand: FOLFIRI Followed by FOLFOX6 or the Reverse Sequence in Advanced Colorectal Cancer; A Randomized GERCOR Study, Journal of Clinical Oncology, Vol22, 2004

***Alan Venook: Critical Evaluation of Current Treatments in Metastatic Colorectal Cancer, The Oncologist, 2005; 10: 250-261